

期は中世から近世と推定される。

9 関係文献

(財)茨城県教育財団『羽黒遺跡』(茨城県教育財団文化財調査報告)一〇

二〇〇三年)

(駒澤悦郎)



滋賀・野路岡田遺跡

のじおかだ

1	所在地	滋賀県草津市野路町字岡田・澤・西之野
2	調査期間	二〇〇一年(平13)五月～二〇〇二年三月
3	発掘機関	草津市教育委員会
4	調査担当者	岡田雅人
5	遺跡の種類	集落跡
6	遺跡の年代	古墳時代中期～鎌倉時代初頭、近世
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	



(京都東北部・京都東南部)

野路岡田遺跡は、JR東海道琵琶湖線南草津駅の西側隣接地に広く展開する複合集落遺跡であり、面積は三〇・六haにも及ぶ。当遺

跡は、瀬田丘陵から琵琶湖方面へ細長く西方へ伸びる舌状台地上に立地する。この台地上には通称「馬道」と呼ばれる幅三～四mの東西方向に延びる古道が存在する。

調査の結果、この古道に規制を受けた掘立柱建物群

や、小堂跡と推測される遺構など、町場的な景観を有する集落跡が検出された。しかもこれらの遺構が一二世紀末から一三世紀前半という限定的な時期の中で展開・終焉するといった現象を確認するに至り、『吾妻鏡』や『源平盛衰記』など各種文献史料に現われる中世の首領「野路首」の蓋消失が高まつた。

木簡は、前述した「馬道」に隣接した近世の井戸状遺構の中層埋土から一点出土した。共伴した遺物には、数点の桟瓦片がある。

8 木簡の釈文・内容

(1)

京
辛
屋
也

149×38×3 011

杉の柾目材で、表裏両面に墨痕が認められ、表面は一行書き、裏面は二行書きの墨痕が認められる。表の文字は墨線によつて見せ消ちされている。其伴遺物や内容からみて近世の木簡と推測される。表裏両面に屋号と考えられる「平」という墨書が認められることから、商取引などに使用された荷札の可能性が高い。

岡田雅人

